



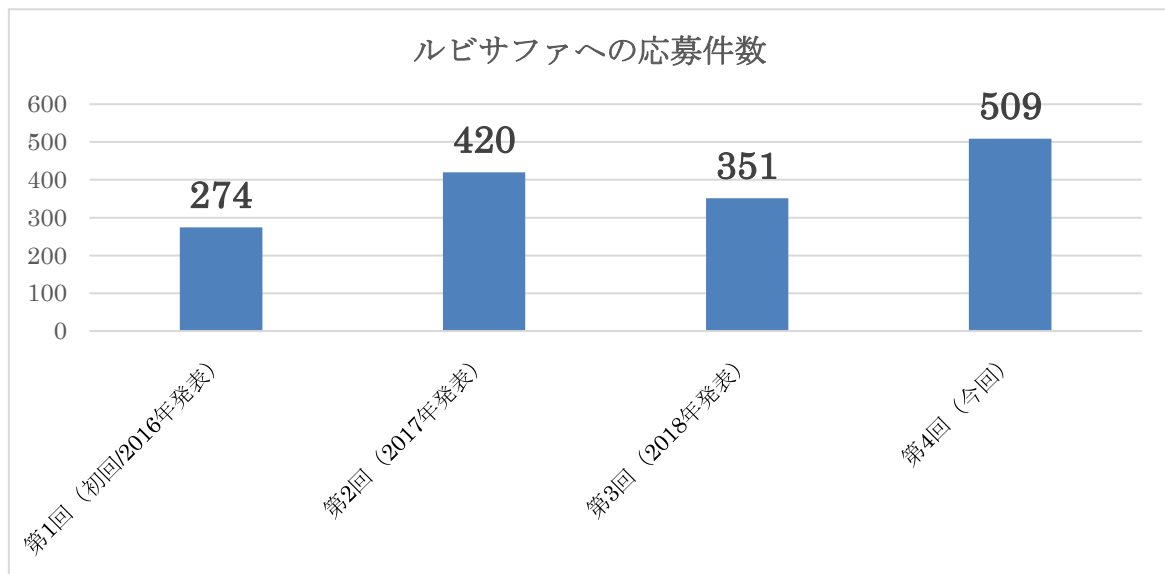
2018年度 仕事とキャリアのアーカイブ構築事業
第4回「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～

250字のつぶやき大募集!

第4回
「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～
入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第4回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、応募作品 509 点の中から入選作品 4 点を決定しましたので発表いたします。

《ママ、ばんばってる…》が キラリしごと大賞 に！



【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、現在、約 6,628 万人の人々が働いておりますが、働く人一人ひとりの職業キャリアには、必ずキラリと光る言葉や出来事があったはずで。それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として集積し保存していくことを目的としています。2016 年、17 年、18 年と実施し、いずれの年も専門誌や WEB サイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第 4 回の募集をいたしました。

なお、前回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。



■**募集内容** 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつぶやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■**表彰** 「キラリしごと大賞」(1名)：賞状と副賞(3万円図書券)、「サファイア賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ルビー賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ガーネット賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券+イフ賞1万円クオカード)

■**応募数**：509件(男女192件[37.7%]：317件[62.3%])。第1回は274件、第2回は420件、第3回は、351件で、第1回から第3回まで総合した男女比は、男性42.0%、女性58.0%だった)

■**応募年齢**：10代から80歳以上まで。職業も画家、保育士、看護師、ライター、医師、女優、公務員、公認会計士、警備員、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等々。

■**応募者の在住地域**：日本国内は北海道から沖縄・九州まで(最多は関東地方、次いで近畿地方)。外国では、アメリカ合衆国、セルビア共和国、台湾、チェコ共和国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国、メキシコ合衆国など(50音順)。

■**選考** 2019年2月28日(木)に応募を締め切り(募集開始時のマスコミリリースは2018年11月22日、直後にホームページにおいて公表)、4月2日(火)に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■**選考委員**：委員長／諏訪康雄理事長
副委員長／菊池桃子理事(女優・戸板女子短期大学客員教授)
委員／当NPO担当部長、(株)イフ 川崎芳清社長

■**主催** 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2019年6月19日
認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク
〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地第3東ビル5F
理事長 諏訪康雄
お問合せ先 広報部長 川野晋太郎 (090-6954-1270)
Email : info@career-ken.org Phone : 03-3863-0488
URL : <http://www.career-ken.org/>

【認定 NPO 法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当 NPO は、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成 25 年 4 月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立ってもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当 NPO は目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくする NPO 等と幅広く連携し効果的な活動をしています。

【配布資料】

- ・リーフレット 「仕事のルビー 働くサファイア」 ～働く私を動かした言葉や出来事～
- ・2018 年度 NPO 活動報告



第4回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム あきら 様 関東在住 40歳代

「なかないよ」

「あやちゃん、泣かないよ」復職して1年半。
保育園に行く＝母に夕方まで会えない。と、娘は登園時に泣くようになった。
仕事に充実感を見出せなくなっていたときでもあった。
こんなに泣くのを振り切ってまでやるべき仕事を私はしているだろうか…。
逃げるように駅に向かう日もあった。でもある日、「ママ、ばんばってるもんねー。あやちゃんもばんばるの」ぽっちり涙が見えるけれど、それは無いことにして、
2人でにっこり笑った。
そうだ。ばんばってる！ それでいい。娘に背を押され、私は今日も駅に向かう。

<ご本人コメント>

送っただけで満足していたので、入選したとのご連絡をいただいととても驚きました。本当にありがとうございました。テーマにした時期は今から7,8ヶ月前のことになり、今では娘は「泣いたことなんてないわ」というような顔をして保育園に喜んで通っていて、あのときの葛藤はなんだっただとたまに思い出すこともあります。

家族のために仕事をし、仕事のために家族を守り、果たしてなにが正解なのかわからないままではありますが、泣いたことも笑ったことも、いつかよい思い出になるように、これからも精一杯はたらいていきたいと思っています。



■ルビー賞

ペンネーム 佐藤きなこ 様 関東在住 30歳代

「じゃない方社員」

産休を取得した社員が抱えていた案件は、産休期間中、全て私が引き継ぐ事になった。独身女に反論の余地はない。早朝出勤と残業の毎日。体力も精神も限界だったが、何とか耐えた。産休から復帰した彼女と挨拶を兼ねて、取引先を訪問した。

「産休中に旅行に行っちゃったんですよ〜。」と楽しそうに話す彼女。

悔しさで涙が込み上げる。

すると取引先の方が「あなたみたいな人の気持ちが分からない人と、仕事をしたくありません！」と一喝。

立場の弱い私の気持ちを代弁してくれたようで、嬉しかった。努力は必ず誰かが見てくれているんだ。

<ご本人コメント>

この度は選出頂き、ありがとうございます。

性別に関係なく、私と同じような立場で声も上げられず、必死に頑張っている人がたくさんいると思います。今回の受賞をきっかけに、そんな人達にも目を向けてもらえたら嬉しいです。お互いに思いやりの心を持って働ける、そんな職場環境が出来ていくことを、切に願っています。そして、私の気持ちを察してくれた取引先の方には、受賞の報告と共に、改めて、感謝の気持ちを伝えたいと思います。



■サファイア賞

ペンネーム 小松崎潤（こまつざき じゅん）様 関東在住 30歳代

「手ひとつ」

会社で失敗すると頭をはたかれた。
僕はこらえた。悔しさは握りこぶしに隠して。
それでも限界がきた。もう辞めたいって。
そんなとき「大丈夫だ」って背中をさすってくれた手があった。
「言いに行こうぜ」と背中を押しした手があった。
「よくやったな」って肩を抱いてくれた手があった。
手ひとつで僕はドン底を見た。でも手ひとつで僕は前を向けた。
僕の手もそんな手でありたい。

<ご本人コメント>

この度は素晴らしい賞をありがとうございます。
「働く」とは、端(はた)を楽にするという意味だと知り、まさに自分が周りにそうしてもらっていると感じる日々です。新しい時代の幕開けに自分自身が今度はそうなれるように切磋琢磨していきたいです。



■ガーネット賞

ペンネーム 佐々木美紅（ささき みく） 様 北海道在住 30歳代

「できることを一生懸命やっ払いこう！」

私は生まれつき筋肉の病気があり、電動車椅子で生活をしています。入社して13年になりました。入社当初、私はファイルを取ったり、受話器を持ったり、健常者と同じように働けないことにコンプレックスと不安を抱えていました。

ある日上司に『できないことをリストにして』と言われ、一覧にまとめました。指に力が入らないため、ホッチキスが固くて使えないとか、印鑑を綺麗に押せないなど、できないことを素直に書きました。

そのリストを見て『できることを一生懸命やってくれたらいいから』と言ってくれた上司の言葉が胸に残っています。

<ご本人コメント>

この度は、素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございました。私は今、通勤やお手洗いが一人では大変になり、会社と相談して在宅で働いています。『障がい者なのに働いていて偉いね』と言われることがありますが、障がい者であっても、当たり前前仕事ができる社会になってほしいです。工夫と、視点を変えれば、もっと働ける障がい者が増えると思います。そのためには実際に働く障害当事者が情報発信をしていくことが大事だと考え、今回応募しました。受賞できて嬉しいです。私の働く体験が少しでも社会の役に立てたら光栄です。